

# 循環器グループの紹介

2023.1.28 阿部忠朗

## ① 循環器グループの人々、地域連携

(県内)

新潟大学 : 沼野藤人、阿部忠朗、小澤淳一、塚田正範、馬場恵史、堀口祥

新潟市民病院 : 塚野真也、星名哲

魚沼基幹病院 : 鈴木博

長岡赤十字病院 : 渡辺健一、水流宏文

立川総合病院 : 遠藤彦聖

県立新発田病院 : 長谷川聡、鳥越司

済生会新潟病院 : 羽二生尚訓

あがの市民病院 : 福島英樹

県立中央病院 : 額賀俊介

(県外)

国立循環器病研究センター : 伊藤裕貴



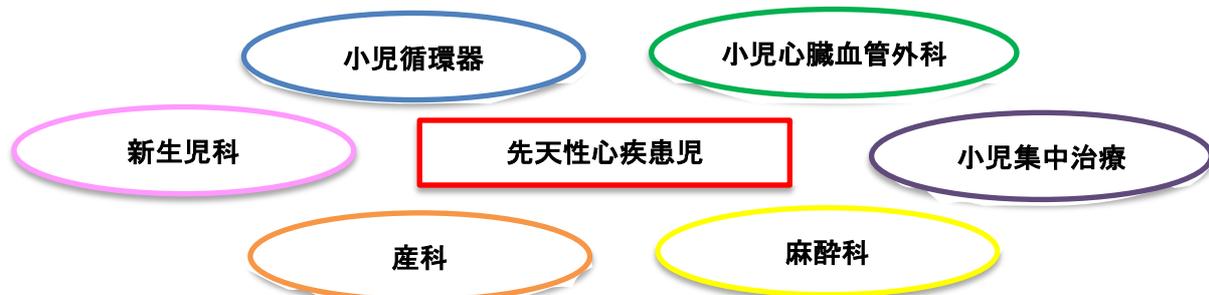
\* 現在、県内の小児心臓血管外科手術、小児循環器カテーテル治療が大学病院で施行されており、地域連携の体制が確立されている(集約化)。

## ② 循環器グループの仕事

- ✓ **診断、治療方針検討** : 様々なモダリティを駆使して正確に診断し必要な治療を検討します。心外Drへの症例提示も重要な業務です。
- ✓ **内科的治療、カテ治療** : 術前・術後の循環管理、心不全や不整脈への薬物治療を行います。カテ治療では側副血管のコイル塞栓術、狭窄血管のバルーン拡大やステント留置などを行います。心房中隔欠損、動脈管開存の多くはカテ治療が可能となりました。
- ✓ **外来診療** : 内服調整、循環動態フォロー、適切な時期にカテや治療を企画します。

\* 小児循環器分野の中にも、川崎病、心筋症・心不全・心移植、遺伝性不整脈、カテーテル治療、画像、成人先天性心疾患など subspeciality があり、各々が更に自分の武器を持ち活躍中です。

<先天性心疾患> 各部門が密接に連携しながら最善の治療を提供できるようベストを尽くしています。



「チームの要は *Super Surgeon* の存在です！」

## 小児心臓手術件数

2018年 151件(人工心肺 101件)  
2019年 159件(人工心肺 104件)  
2020年 147件(人工心肺 106件)  
2021年 125件(人工心肺 92件)  
2022年 129件(人工心肺 90件)

\* 国立大学では全国で2番目の手術件数！！

## 心臓カテーテル件数

2017年 129件  
2018年 145件  
2019年 177件・・・心房中隔欠損、動脈管開存のカテ治療開始  
2020年 211件(治療 109件)・・・ハイブリッド手術室の運用開始  
2021年 217件(治療 102件)・・・5年で1.7倍！  
2022年 209件(治療 134件)・・・2.5kg未満児への動脈管開存のカテ治療開始  
2023年、経皮的肺動脈弁留置術、潜因性脳梗塞に対する経皮的卵円孔閉鎖術開始予定

<成人先天性心疾患>

<川崎病後遺症フォロー>

<遺伝性不整脈>

<肺高血圧症・心筋症>

さまざまな疾患に対応しています。

## ③循環器クループの研修について

### ・小児循環器医として必要な知識技術を習得

小児心疾患の理解のみならず、エコー検査の技術をはじめとした各種生理機能検査の習得、カテーテル検査や治療の習得、新生児の特性や血行動態の理解、心臓血管外科手術の理解、術前術後の集中治療管理など多岐におよびます。現在のメンバーの殆どが大学だけでなく、国内の主要施設での研修でもこれらの知識技術を培ってきました。

### ・小児循環器専門医の取得

小児循環器専門医の取得には専門施設での5年間の研修が必要です。その5年間には国内留学での研修期間も算定可能です。現在まで、国立循環器病研究センター、榊原記念病院、兵庫県立こども病院、大阪大学に臨床研修で派遣をしましたが、希望があればその他の国内主要施設での研修も可能です。現在は、新潟大学でも十分な研修が可能な状況です。

### ・学位の取得

沼野が川崎病後遺症例の冠動脈石灰化バイオマーカー関連の研究に、小澤が遺伝性不整脈の遺伝子解析およびイオンチャネルの機能解析の研究に携わっており、学位の取得も可能な研究に取り組むことも可能です。馬場が悪性腫瘍治療の心筋に対する影響の研究で学位取得を目指しています。水流が大阪大学で心筋症患者の培養心筋細胞を用いたRNA-sequence、生理機能評価の研究を行って学位を取得しました。

#### ④循環器グループの研究について(参加中・参加予定の研究)

- a) KIDCAR研究(川崎病冠動脈瘤患者に対するレジストリ研究)
- b) EARNEST研究(川崎病冠動脈瘤に対するARB/ACEIの効果判定の研究)
- c) スタチン研究(川崎病冠動脈合併症に対するスタチンのPharmacokinetic研究)
- d) 遺伝性致死性不整脈研究(滋賀医大との共同研究)
- e) フォンタン術後臨床事故に対する前向き他施設コホート研究
- f) 小児肺動脈性肺高血圧患者における診断前学校心電図研究(他施設共同研究)
- g) 冠動脈CTカルシウムスコアを用いた石灰化バイオマーカー研究(国内多施設予定)
- h) 学校検診を用いたBrugada症候群の共同研究(with 京都大学)
- i) QT延長症候群2型の性周期と発作の関連調査
- j) QT延長症候群8型のiPS細胞作成を共同研究(with 京都大学)
- k) Fontan患者の腸内細菌叢研究(企業共同研究)
- l) JCCG(日本小児がん研究グループ)大規模観察研究Working Group 8(循環器合併症研究班)

興味がある方はいつでもお声がけください。

